授業科目　保健医療福祉特論

【担当教員名】	対象学年	1	対象学科	理学・作業・言語・義肢・栄養・スポ・看護・社会
千原明、荒川正昭、髙橋明美、川原啓美、	開講時期	前期	必修・選択	選択
荒井冨佐子、藤井博之、山口正康	単位数	1	時間数	15

【<概要>又は<一般目標：ＧＩＯ>】

保健・医療・福祉分野において、長い経験を持つ専門家による講義を通じて、各自の将来の専門職としての発展のために、その分野の諸課題を理解する。

<行動目標：ＳＢＯ>】

・講義内容について、その時代的背景、考えの内容、受講者へのメッセージを列記できる。
・講演内容を、自分自身に関連づけて述べられる。
・講演内容を自らの地域に関連づけて述べられる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員 講師名（所属）　＊敬称略
①	医療の原点を探る 16世紀のフランスの外科医であり、ユマニストであったパレの下記の言葉を念頭に、終末期医療のあり方を通して、生命の尊厳と医療のあり方を学ぶ。 To cure, occasionally（ときに癒し）、To relive, Often（しばしば和らげ）、 To comfort, always（つねに慰める）		①千原　明 （白根大通病院ホスピス）
②	医の原点を考える 医（医療・保健・福祉）の原点を最も単純化すれば、「病院」と「治療」に集約される。「病院　hospital（L＝hospitale）」は「宿を提供して、お世話する」、「治療therapy（L＝therapia）」は「人に仕える」という意味である。ここから自ずと医療人の生きる道が見えてくると思う。		②荒川　正昭 （新潟県健康づくり・ スポーツ医科学センター）
③	保健医療福祉特論 保健・医療・福祉の連携と統合について理解することを目標とする。今日の保健・医療・福祉に求められるものは何か、各専門職の役割と協働について理解を深める。実際の現場で行われている三位一体の流れをとりあげ、追求していきたい。		③髙橋　明美 （桑名病院　リハビリテーション部）
④	共に生きるために 21世紀は平和の世紀となるはずであったが、現在の所、20世紀よりも更に激しい暴力の世紀となっている。しかしこれは人類滅亡への道であり、私たちは一日も早く新しい平和への道、すべての人類の共存への道を歩みださねばならない。そのために私たちが発見し、実行すべきことは何であろうか。それを共に考え、学びたい。		④川原　啓美 （(財)アジア保健研修財団）
⑤	健康に生きるとは－食事を通して考える－ 我々が、健康であるためにはどのような心構えが必要でしょうか？アンケート調査から若者の実態をみつめ、現在及び将来において自分の健康は自分で守るという自覚をもつこと、そしてその手立てとして「よい食事のとり方」を学ぶ機会にしたいと考える。		⑤荒井　冨佐子 （新潟医療福祉大学　健康栄養学科）
⑥	医療人はいかに鍛えられるか 保健医療福祉の専門職として育つためには、当事者・患者や地域社会のニーズに応えようとする体験、目標となる先達（Role Model）の存在、他職種との交流や衝突とそれを乗り越える体験などが基本的な契機となる。社会のニーズ、技術と技術システムのあり方、専門職の歴史などに触れ、理解の一助としたい。		⑥藤井　博之 （柳原リハビリテーション病院）
⑦	「よく病み、よく老い、よく死ぬために」（往診を通して見えてくるもの） 私は小さな町の開業医です。田舎の町でたくさんの寝た切りの患者さんを往診しています。そこには苦しむ人間の表情や、底抜けに優しい家族の姿があります。時には希望を伝え励まし、時には絶望を分かち合います。私たち医療者が患者さんのためにできることは一体なんでしょうか。私の経験を通し人が生きる、老いる、病む、死ぬことを一緒に考えてみましょう。		⑦山口　正康 （山口クリニック）

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書				
参考書				
その他の資料				

【評価方法】
出席点（毎回授業終了時にレポートを提出する）

【履修上の留意点】
授業日程が変則的なので、後日掲示される日程表を確認すること
履修者が多い場合には受講者数を限定する可能性があります